

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成29年1月】

■調査概要（データ対象期間：平成29年1月1日～1月31日）

- 調査期間：平成29年2月1日～2月17日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業20企業、製造業22企業、卸売業16企業、小売業33企業
飲食業15企業、サービス45企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計151企業>
- 調査項目：1月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

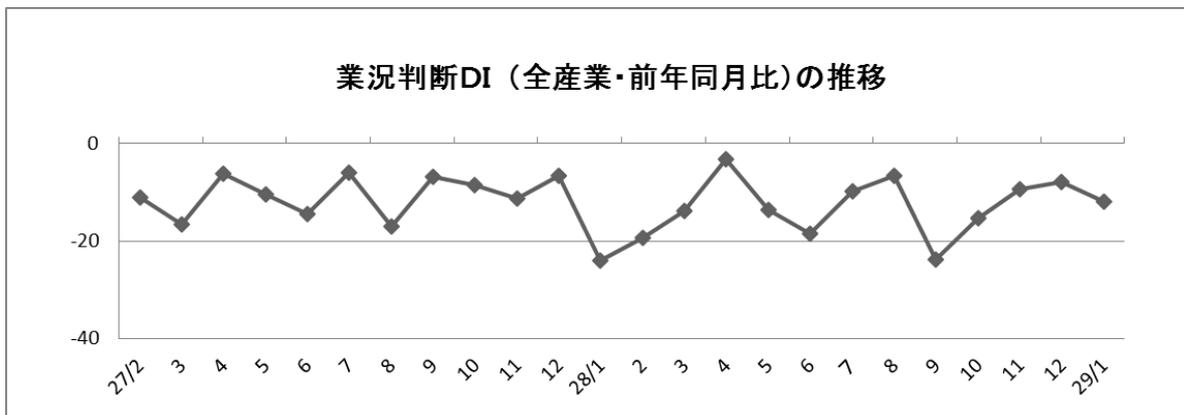
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲8.0）よりマイナス幅が3.9ポイント拡大し、▲11.9となった。業種別では、建設業はマイナス幅が縮小した。小売業はプラス幅が縮小し、製造業はプラスから0となった。サービス業、卸売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲12.7）よりマイナス幅が9.2ポイント拡大し、▲21.9となった。業種別では、卸売業、建設業はマイナス幅が縮小した。小売業はプラス幅が縮小し、製造業、サービス業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.6 (13.3)	58.9 (65.4)	26.5 (21.3)	↓ ▲11.9 (▲8.0)	8.6 (14.0)	60.9 (59.3)	30.5 (26.7)	↓ ▲21.9 (▲12.7)
建設業	5.0 (0.0)	65.0 (60.9)	30.0 (39.1)	↗ ▲25.0 (▲39.1)	5.0 (4.3)	65.0 (60.9)	30.0 (34.8)	↗ ▲25.0 (▲30.5)
製造業	22.7 (25.0)	54.6 (55.0)	22.7 (20.0)	↓ 0.0 (5.0)	9.1 (25.0)	59.1 (45.0)	31.8 (30.0)	↓ ▲22.7 (▲5.0)
卸売業	6.3 (0.0)	49.9 (81.2)	43.8 (18.8)	↓ ▲37.5 (▲18.8)	6.3 (6.3)	62.4 (56.2)	31.3 (37.5)	↗ ▲25.0 (▲31.2)
小売業	27.3 (25.8)	60.6 (71.0)	12.1 (3.2)	↓ 15.2 (22.6)	24.2 (22.6)	54.6 (58.0)	21.2 (19.4)	↓ 3.0 (3.2)
飲食業	6.7 (20.0)	46.6 (40.0)	46.7 (40.0)	↓ ▲40.0 (▲20.0)	6.7 (20.0)	33.3 (33.3)	60.0 (46.7)	↓ ▲53.3 (▲26.7)
サービス業	11.1 (8.9)	64.5 (71.1)	24.4 (20.0)	↓ ▲13.3 (▲11.1)	0.0 (8.9)	73.3 (75.5)	26.7 (15.6)	↓ ▲26.7 (▲6.7)

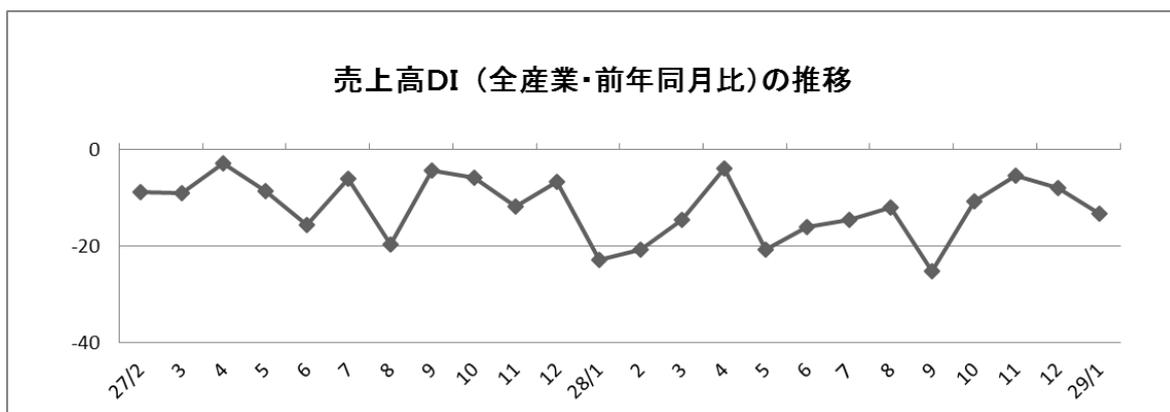
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲8.0）よりマイナス幅が5.2ポイント拡大し、▲13.2となった。業種別に見ると、建設業はマイナス幅が縮小し、製造業は横ばいとなった。小売業はプラス幅が縮小し、サービス業、飲食業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

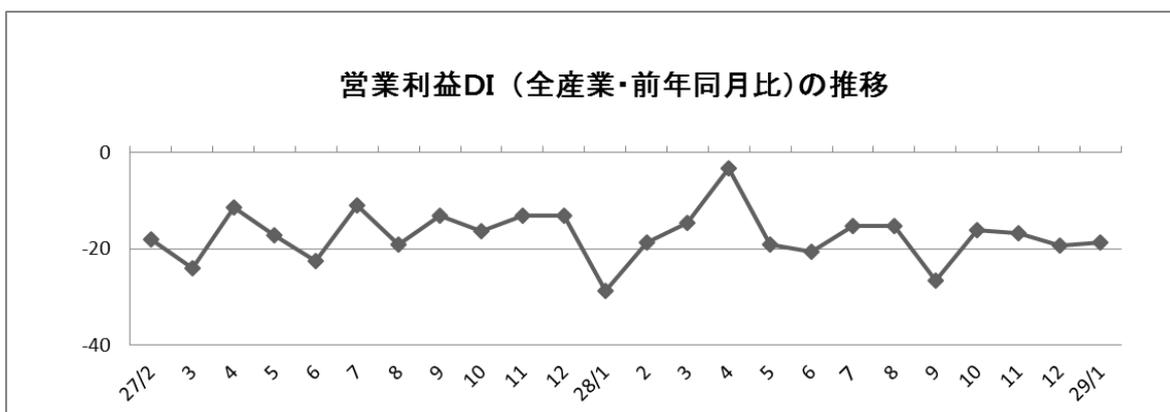


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
全 体	▲ 22.7	▲ 20.7	▲ 14.5	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 14.6	▲ 12.0	▲ 25.1	▲ 10.7	▲ 5.3	▲ 8.0	▲ 13.2
建設業	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5	▲ 39.2	▲ 25.0
製造業	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5	0.0	0.0
卸売業	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2	▲ 18.8	▲ 43.7
小売業	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6	▲ 13.4	16.1	9.0
飲食業	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6	▲ 13.3	▲ 33.4
サービス業	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8	▲ 6.7	▲ 13.3

3. 営業利益DI（前年同月比）

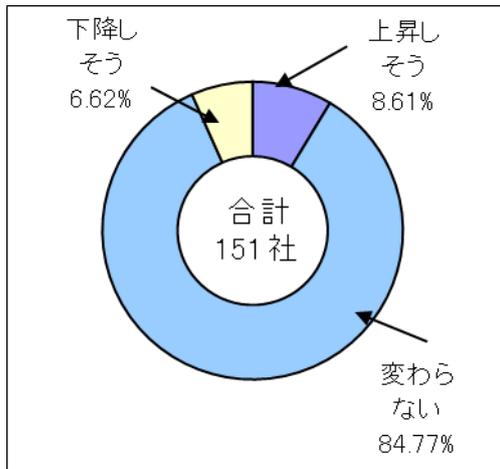
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲19.3）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小し、▲18.6となった。製造業はマイナスから0になり、建設業はマイナス幅が縮小した。サービス業は横ばいとなった。小売業は0からマイナスに転じ、卸売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
全 体	▲ 28.7	▲ 18.7	▲ 14.5	▲ 3.2	▲ 19.2	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 15.3	▲ 26.5	▲ 16.0	▲ 16.7	▲ 19.3	▲ 18.6
建設業	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2	▲ 43.5	▲ 20.0
製造業	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7	▲ 10.0	0.0
卸売業	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 37.5
小売業	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 23.3	0.0	▲ 9.1
飲食業	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 33.4	▲ 46.6
サービス業	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3	▲ 17.8	▲ 17.8

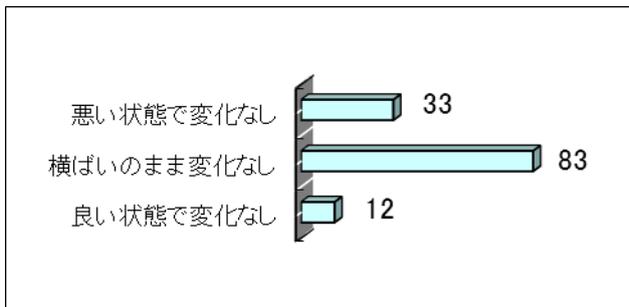
◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



○平成29年2月～平成29年4月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ4.61ポイント増加し8.61%、「下降しそう」が1.38ポイント減少し6.62%となった。業種別の見通しDIは建設業(0.0)、製造業(0.0)、卸売業(0.0)、小売業(▲3.0)、飲食業(0.0)、サービス業(8.9)であった。

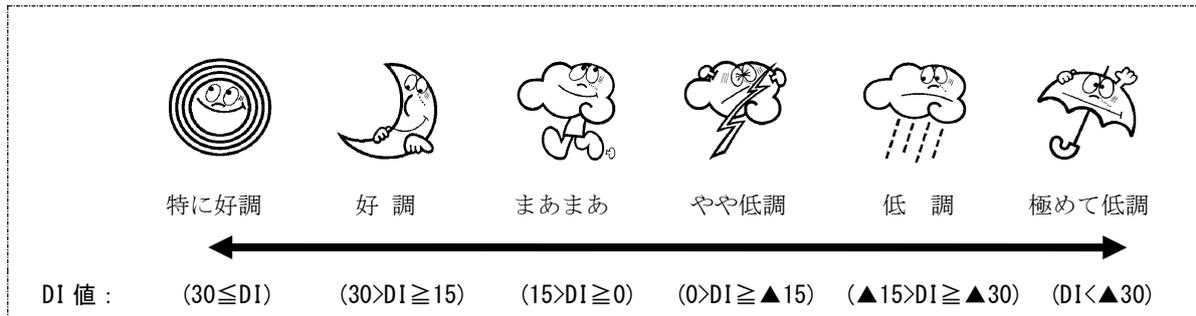
➡「上昇しそう」では、「松本市発注の仕事が多くなりそうなため」(建設業)、「2月以降の受注が見込めるため」(製造業)、「お客様の動きが良いため」(小売業)、「春の観光シーズンのため」(飲食業)、「3月より観光、婚礼シーズンが始まるため」、「卒業入学シーズンのため」、「2月～4月にかけて車検台数が増加するため」、「仕掛け中のプロジェクトの納品と引き合いがあるため」、「新人研修などの予定が入るため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では、「年度末までの受注量が激減しているため」(建設業)、「原材料価格の高騰のため」、「受注量が伸びていかないため」、「季節的要因のため」(製造業)、「消費者の節約志向がさらに高まりそうなため」、「仕入価格の上昇のため」、「米国の状況によるため」(小売業)、「トランプ大統領の影響で不安定になりそうなため」(飲食業)、「事業主が体調を崩し仕事ができないため」、「求職者支援訓練募集定員減少および応募者数低迷のため」、「年度末で仕事の発注がなくなるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

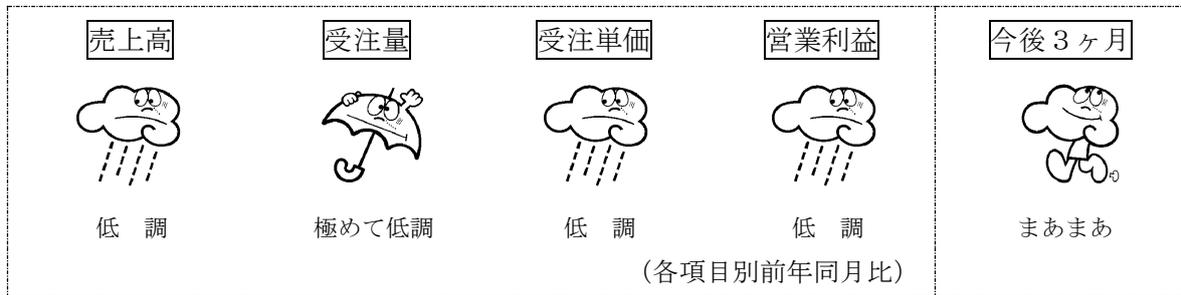


業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



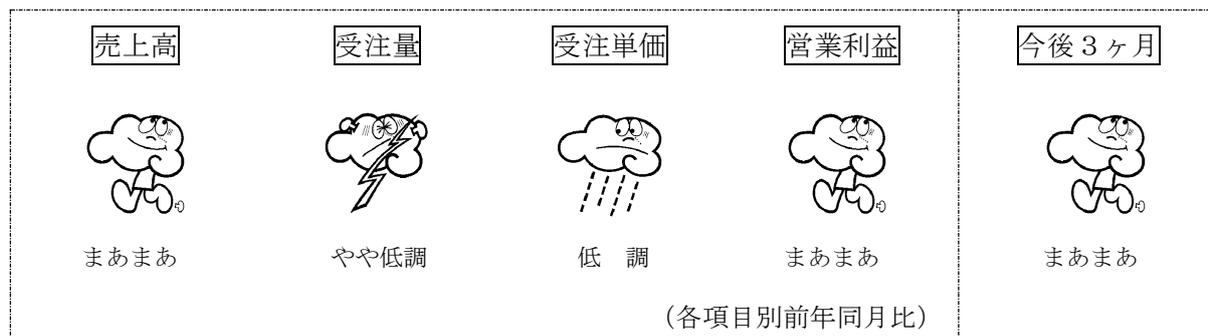
【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7	▲ 12.5	▲ 39.2	▲ 25.0
受注量	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 16.7	▲ 16.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 38.1	▲ 4.7	▲ 13.1	▲ 20.8	▲ 39.1	▲ 30.0
受注単価	▲ 20.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 8.3	4.4	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 26.1	▲ 16.6	▲ 21.8	▲ 25.0
営業利益	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7	▲ 29.2	▲ 43.5	▲ 20.0
見通し	▲ 12.0	8.0	0.0	▲ 4.0	▲ 4.0	12.5	4.3	▲ 4.8	9.5	▲ 8.7	▲ 4.1	▲ 4.4	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 電気工事
 - ・業界に変わった動きなく、静かな年明けだった。
- 管工事
 - ・12月の残りの工事が1月にずれただけで、経営自体は平年並みである。今年も見通しは良くないと思われ、大型店の進出で地元企業は大変である。
- 鉄工
 - ・地域案件は少なく、首都圏案件が多いため、稼働率は夏場から高水準にある。各社にばらつきはあるが、70%~80%程度の稼働率であり、割と良い状態で推移している。
 - ・例年より静かな年末だったので、新年度に期待したい。

2. 製造業



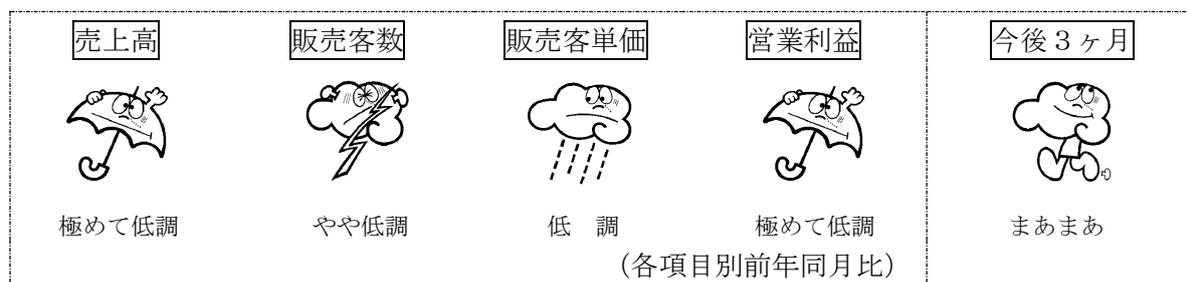
【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 4.5	0.0	0.0
受注量	▲ 12.5	▲ 19.1	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 28.6	0.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 39.1	▲ 26.1	▲ 13.7	▲ 10.0	▲ 9.1
受注単価	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 28.5	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 27.3	▲ 10.0	▲ 18.2
営業利益	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5	▲ 22.7	▲ 10.0	0.0
見通し	4.2	14.3	▲ 33.3	8.7	4.7	▲ 5.0	10.0	▲ 10.0	▲ 8.7	4.4	0.0	▲ 5.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化の進歩により厳しい業界である。 ・出版業界(書籍)も元気がなく、本が売れない。印刷業界も全体として元気がない。当社も11月、12月、1月と受注額が伸びていない状況である。
菓子	<ul style="list-style-type: none"> ・年末の雪不足の影響で、スキー客が例年より少なくお土産品の売上が伸びなかった。
金属塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・この1月は特別需要があり、昨年と比較し良くなったが、2月以降は元に戻って厳しくなることが予想される。また米国の様子が心配である。
合成樹脂加工	<ul style="list-style-type: none"> ・米国経済の動向に注視している。

3. 卸売業



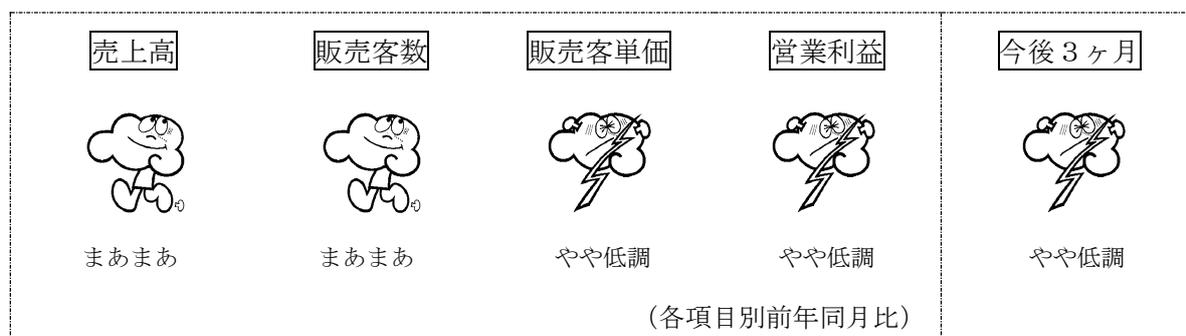
【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1	6.2	▲ 18.8	▲ 43.7
販売客数	▲ 35.7	▲ 6.3	▲ 6.7	▲ 23.1	▲ 16.7	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 14.3	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 6.2
販売客単価	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 7.7	0.0	6.3	▲ 18.8	▲ 18.7
営業利益	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 37.5
見通し	7.1	0.0	0.0	0.0	8.3	▲ 7.1	0.0	7.1	▲ 7.7	0.0	0.0	▲ 6.3	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

土産品	・年始から厳しい状況が続いている。土産品などの商品を購入する観光客が減少しているように感じる。
青果	・寒波や雪の影響等はあったものの、全国的に大きな変化はない1月であった。単価的には前年並みであったが、果物、みかんが少々安かった分、全体の単価は下がった。
自転車	・電動自転車の売上が好調だが、普通自転車の動きは弱い。
機械工具	・先行きの不透明感は変わらずで、米国大統領トランプの動向に期待と不安がある。 ・低調な商いが続いている。
金属製品	・高炉メーカーの原材料高騰による値上がりにより、問屋在庫も徐々に高騰してきている。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲43.7	▲34.3	▲18.1	2.9	▲17.1	▲24.2	▲17.7	▲18.2	▲29.4	▲8.6	▲13.4	16.1	9.0
販売客数	▲43.7	▲37.5	▲24.2	▲3.0	▲11.4	▲24.2	▲11.8	▲6.1	▲29.4	▲5.7	▲23.3	0.0	3.1
販売客単価	▲15.7	▲37.5	▲9.1	0.0	▲22.8	▲18.1	▲17.7	▲12.1	▲23.6	▲22.9	▲20.0	6.4	▲12.1
営業利益	▲34.3	▲34.4	▲18.1	5.9	▲22.8	▲27.3	▲8.9	▲15.1	▲29.4	▲14.3	▲23.3	0.0	▲9.1
見通し	▲3.1	0.0	6.1	2.9	▲2.8	0.0	▲2.9	▲6.1	▲5.9	0.0	0.0	0.0	▲3.0

<経営者の目・見方・e t c>

化粧品	・2017年秋にオープン予定のイオンモール松本。商店街、各店舗ではどう考え、対応しようとしているのか気になっている。
観光物産	・外国人観光客の昼食等の予約は、昨年に比べ大幅に落ち込んだ。
住宅機器	・昨年11月より現場が動き出し、忙しく仕事をしている。
ショッピングセンター	・年始に関しては暦の関係上休日が少なく動員に苦戦した。また3連休も降雪の影響が大きく、中旬まで厳しい状況であった。しかし、中旬以降は順調に推移し、1月としては前年並みの結果となった。
パン	・原材料の価格が上昇気味である。 ・客数は増加したが、客単価が減少した。個人飲食の減少か、家族来店の減少かを見極めたい。

菓子	・松本あめ市までは、人出が多かったが、中旬以降観光客も減り、街全体は静かだった。菓子業界としては、松本スイーツに期待している。
生鮮食品	・今年の1月は天気と曜日が重なり良かった。去年は大雪で、店を閉店にしたため、この天気は大変有難かった。
陶磁器	・穏やかなお正月で、三が日の出足は好調だったが、曜日の並びで4日から仕事始めの企業も多く、全体的には例年並みとなった。松本あめ市も雪に降られずに済んだが、週末ごとに寒波の影響での降雪や冷え込みが続き、店舗小売としてはいつも通り難しいシーズンであった。
書籍・木のおもちゃ	・個人消費が伸びず、苦戦が続いている。新学期に向けて新規顧客獲得のために努力しなければならない。
印章	・松本城や四柱神社は元日から賑わっていたので、来年は近くの大規模駐車場の元日営業も検討してほしい。 松本商工会議所の新春賀詞交歓会は毎年参加者が増えていて、2次会を含めた街への経済効果も大きいと思う。イオンモール松本の建設が進み、近くを通るとその大きさに圧倒される。 ・仕事がネット通販に流れて、店舗販売が厳しい。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8	▲ 28.6	▲ 13.3	▲ 33.4
販売客数	▲ 31.2	▲ 46.1	▲ 13.4	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 42.9	▲ 33.4	▲ 5.6	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 28.6	▲ 20.0	▲ 33.4
販売客単価	▲ 12.5	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 28.6	▲ 26.7	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 35.8	▲ 13.3	▲ 6.6
営業利益	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 42.9	▲ 33.4	▲ 46.6
見通し	6.2	15.4	▲ 6.6	0.0	▲ 20.0	7.2	6.6	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0	▲ 26.7	0.0

<経営者の目・見方・etc>

寿司	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始は非常に好調であったが、成人の日を終えた2週目以降は降雪などの影響もあり、例年通りの流れであった。お客様が多く動く時期にも必要であるが、特に閑散期に地域一体となったイベントや観光誘致ができれば、自身の営業上もありがたいと改めて感じた。 ・降雪が少なかったため、雪による予約の取り消しが1件もなかったことは非常に良かった。しかし夜のフリー客が少ない。車で夜の街を一回りしてきたが、街の中も人通りが少ないためか、全体的に活気がみえないように感じる。 ・忘年会・新年会の宴会が減少気味で、少人数化の影響で売上が良くなかった。
----	--

郷土料理	・観光の落ち込むシーズンは今年も同様に厳しい。新年会も常連客が主で少人数の申し込みが幾分増加している。消費者の節約志向で上昇の兆しが見えてこない。
料理	・新年度を迎え、意気込んでいたが客足が遠く、例年のお正月のようにはならなかった。
中華料理	・初めて正月の2日から営業だったが、昼、夜ともに人出があり賑わったため、来年以降も続けていこうと思う。松本あめ市、国宝松本城氷彫フェスティバルなどイベントが多くあり、非常にありがたかった。暖かい料理を求めるお客様が多く来店した。
そば	・三が日は天候も穏やかで、暖かく人出が多かった。今年は景気も穏やかで懐も温かく、良い年になってくれるように期待している。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
売上高	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0	6.8	▲ 6.7	▲ 13.3
販売客数	▲ 23.1	▲ 2.3	▲ 6.8	▲ 2.3	▲ 11.7	▲ 15.5	▲ 8.7	▲ 4.5	▲ 22.7	0.0	4.6	▲ 11.1	▲ 17.7
販売客単価	▲ 23.0	0.0	▲ 2.2	4.5	9.3	▲ 4.4	▲ 4.4	4.5	0.0	▲ 2.5	6.8	▲ 2.2	▲ 4.4
営業利益	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0	2.3	▲ 17.8	▲ 17.8
見通し	2.6	0.0	▲ 2.3	6.7	2.3	2.2	0.0	4.6	9.1	10.0	4.5	2.2	8.9

<経営者の目・見方・e t c>

自動車整備	・11月の降雪によってすべてが計算違いになってしまった気がする。毎年タイヤ交換の数が減り、早々の降雪に消費者の気持ちも財布のひももしっかりと締められたように感じ、今後が不安である。
タクシー	・新年の催しや行事が各地で行われている街は賑わったが、観光客数は少なく、売上高は前年より悪かった。
機械設計	・年度末までの仕事は多い。来期に期待したい。
写真	・大学受験用の証明写真が堅調だった。成人式の記念写真も昨年度並みだった。
温泉旅館	・米国では、トランプ大統領が就任するとあって今後の政策に関心が集まる場所である。当地では、県外客、外国人観光客、地元の新年会等すべて前年より少なく、静かな1月だった。 ・例年通りではあるが、個人客の対応だけでは難しい。
ホテル	・宿泊はインバウンドを含め良好だが、宴会の動きがあまり良いとは言えない。レストランはまずまずの状態である。

ソフトウェア

- ・宿泊部門について寒波の影響が若干動きが鈍かったが、その他についてはほぼ前年並みだった。
- ・顧客業種によっては流通経路の拡大などがあり、引き合いが期待できる。県内同業種では、複数の企業により協同受注の形態を模索する動きがある。ただIT業界による構造化の弊害は大きく、動きの速い顧客業務に最適なシステム化を提案できるシステムエンジニアが不足している。

ホームクリーニング・
リネンサプライ業
介護サービス

- ・昨年同月比6.8%の売上増であった。東南アジアを中心としたインバウンドの効果が大きかった。
- ・通常国会の議論に注目している。介護、医療の法律改定の行方は中小業者にとって死活問題である。

獣医

- ・猫も高齢化が目立ち、いわゆる長生きしている猫(15～20歳)が多くなった。猫は高齢化により10歳位から慢性腎臓病や甲状腺障害などが起こるようになる。血液検査で病気のステージを数値化できないので、早期発見のために必要な健康診断のベーシック検査を進めていきたい。

